

改修された農学部正面

写真 山本 定博 (C昭58年卒)



### 会長あいさつ

農学部同窓会会長  
西尾 迺 富

今年の鳥取の天候は7月が低温寡照だったことが影響して、水稻の不作が予想されておりますが、皆さまの地域の作柄はいかがだったでしょうか。全国各地でご活躍の1万6千名余の農学部同窓会員皆さまにおかれましては、ますますご活躍のこととお慶び申し上げます。また、平素より、同窓会活動に対しましてご支援、ご協力を賜り、心から厚くお礼申し上げます。

さて、2年前の総会において思いがけなく会長に選出され、大役を引き受けさせて頂きましたが、今年の5月の総会で、さらに2年間、引き続き会長の任務に当たらせていただくこととなりました。皆さまのお力をお借りしながら同窓会をもり立て、伝統ある母校の発展に微力ながら貢献できますよう努力して参ります。

ここでこれまでの2年間の活動を振り返りますと、今期は会報発行、支部活動支援、卒業祝賀会援助、在校生学科コース援助など従来から行ってきた事業に加えて、「同窓会のあり方検討委員会」を発足させました。これは、名簿作成問題や、近年の同窓会活動の停滞、特に若い世代の同窓会離れが進みつつ

ある現状に対して、今後の同窓会活動のあり方について鋭意検討していただく委員会です。

このあり方検討委員会より今年の5月の総会の場で「同窓会員名簿の発刊をした方がよい」との報告がなされました。わが同窓会の名簿は平成10年を最後に以来発刊しておりません。これは個人情報の取扱が非常に厳しくなったことも一因であります。しかし、名簿には同窓会員相互の連携を深め、在學生に母校愛を植え付けるという役割もあり、同窓会活動の重要な柱のひとつであると考えます。

そこで、来年(平成19年)の秋を目標に名簿を発刊すべく作業に入りました。ただし、従来のような同窓教員や役員が情報を集めるのではなく、個人情報をきちんと取り扱える実績のある業者に名簿作成を依頼することとしました。時期が来ましたら、業者から住所などを尋ねるハガキが届くと思いますので、是非とも必要事項をご記入の上、ご返信頂きますようお願いいたします。

最後となりましたが、会員皆さまの今後の一層のご発展を心から祈念申し上げますと同時に、今後とも同窓会の運営に対しましてご支援、ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

#### 主な目次

会長あいさつ .....	1	講座トピックス .....	5
農学部長あいさつ .....	2	支部だより .....	10
総会報告 .....	3		

## 魅力ある新しい農学部を目指して



同窓会の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお喜び

申し上げます。常日頃より鳥取大学農学部の発展のために、多大なご支援をいただきましてありがとうございます。心より厚く感謝申し上げます。

9月末に安倍内閣が発足し、本学部の卒業生で衆議院議員の松岡利勝氏（林学科卒）が農林水産大臣に就任されました。鳥取大学の卒業生が大臣になったことは、開学以来初めてのことで、農学部にとりましても、同窓会にとりましても、まことにおめでたいことで、心からお慶び申し上げます。日本と世界の農林水産業の安定と発展のために、ご活躍を心から祈念したいと思います。

鳥取大学も法人化を迎え3年目となりました。自主、自律（自立）、自己責任を基本として、地域から信頼され、国際的にも通用する「魅力ある大学」への発展を目指して、様々な新しい取り組みを進めております。

農学部では、生物資源環境学科と獣医学科、さらに4つの附属施設が協力し合って、生産者から消費者までを視野に入れた「食料」「安全」「健康」「環境」「生命」「エネルギー」等について取り組む「21

### 農学部長 本名 俊正

世紀の新しい農学」への発展を目指して、より高次教育・研究・社会貢献を推進する体制作りが進んでいます。

また、農学部では耐震化とともに新しい時代に対応した施設とするために、改修工事を進めておりましたが、3月に本館東側半分（図書館側）、9月に新館、旧連大棟の改修工事が終了しました。玄関周辺も一新し、廊下の付け替え、教室室、実験室、学生居室等々、内部を全面的に改修整備し、情報化時代に対応した改修と設備の充実を進めています。10月からは本館南西棟の改修が始まり、並行して、農場実験室、旧農業工学の実験棟の改修が進んでおり、来春3月の完成に向けて連日工事が進んでいます。さらに第3期工事として本館北西棟を明年度の工事予定で文部省に予算要求をしており、完成しますと、湖山の地に移転してからの40有余年の様々な支障が解消され、更に飛躍発展をめざす基盤が確率することになります。機会がございましたら、ぜひともおいでいただき新しい農学部をご覧いただきたいと思ひます。

同窓生諸先輩のこれまでの暖かいご支援に心から感謝いたしますとともに、今後ともさらなるご支援ご鞭撻を賜りたく、どうぞよろしくお願い申し上げます。皆様方のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。

## 名簿発刊決定

名簿を発刊する事が決まり、平成20年の発刊にむけ作業を開始いたしました。業者（サウト）から発刊に関する調査の葉書等が会員各位に送られてくると存じます。より正確な名簿作成のためにも、是非ご協力いただきたいと存じます。何卒よろしくお祈り申し上げます。

農学部同窓会

## 総 会 報 告

今回の農学部同窓会総会は5月13日(土)午前11時より、鳥取市駅南のウェルシティ鳥取(旧、鳥取厚生年金会館)で、40名の同窓会員が出席して開催されました。

最初に、西尾迺富会長の挨拶、つづいて本名俊正農学部長から農学部の近況についてわかりやすい説明を受けました。そして、本題である報告および協議に入りました。

### 平成16・17年度事業報告

学内幹事より事業報告が行われ、質疑応答の後、全会一致で承認されました。

- |  |  |
|--|--|
| (1) 総会開催(平成16年5月8日)                        | (9) 終身会費の納入状況  |
| (2) 「同窓会会報」第26号・第27号の発行                    | 平成17年4月現在: 1,350件(12.6%)   |
| (3) 支部総会の開催《24支部》                          | 平成16年入学生: 241件(95.6%)  |
| (4) クラス会の開催《鳥取県内において13クラス》                 | 平成17年入学生: 233件(93.6%)  |
| (5) 卒業祝賀会援助《平成17年3月18日、平成18年3月17日》         | (10) 同窓会あり方検討委員会報告   |
| (6) 慶弔時の祝電・弔電の発信《合計22件》                    | 同日午前10時より、第2回農学部同窓会あり方検討委員会が開催され、同窓会名簿発刊の方針について審議した結果、今後名簿の発刊に向けて前向きに検討していくとの結論に至ったことについて報告がありました。 |
| (7) 卒業式への西尾会長出席<br>《平成17年3月18日、平成18年3月17日》 |  |
| (8) 入学式への西尾会長出席<br>《平成17年4月6日、平成18年4月6日》   |  |

### 平成16・17年度会計報告

学内幹事から会計報告があり、審議および監査報告の結果、全会一致で会計報告は承認されました。

#### <一般会計>

平成18年3月31日

##### 収入の部

(円)

科 目	予 算 額	収 入 済 額	差 引 残 額	備 考
前 期 繰 越 金	1,419,865	1,419,865	0	
入 会 金	2,000,000	2,400,000	400,000	平成16年・17年入学
会 費	15,580,000	26,149,120	10,569,120	{ 終身会費 467,080 (34件)
預 金 利 息	135	35	100	{ 年会費 4,082,040 (828件)
合 計	19,000,000	29,969,020	10,969,020	{ 新 入 生 21,600,000 (474件)

##### 支出の部

(円)

科 目	予 算 額	支 出 済 額	差 引 残 額	備 考
事 務 費	600,000	508,155	91,845	事務用品等
通 信 運 搬 費	600,000	642,144	42,144	コピー料、コピーリース料、電話料等
会 議 費	700,000	623,921	76,079	幹事会、役員会
旅 費	2,500,000	2,007,589	492,411	支部総会出席旅費
支 部 援 助 金	1,200,000	1,110,000	90,000	24支部、13クラス会
賃 金	6,000,000	5,556,000	444,000	賃金、事務謝金
会 報 発 行 費	3,500,000	3,299,709	200,291	会報第26・27号
慶 弔 費	100,000	23,661	76,339	弔電等
卒 業 祝 賀 会	1,400,000	1,400,000	0	平成17年3月18日、平成18年3月17日
総 会 費	600,000	552,387	47,613	平成16年5月8日
学 科 コ ー ス 助 成 金	800,000	800,000	0	@100,000×8コース
備 品 費	100,000	229,140	129,140	パソコン、エアコン
広 報 記 録 費	700,000	607,750	92,250	就職ガイダンス、広告料、名簿アンケート
退 職 積 立 金	100,000	100,000	0	平成16・17年度
予 備 費	100,000	0	100,000	
終 身 積 立 金 へ	0	11,000,000	11,000,000	定期預金
合 計	19,000,000	28,460,456	9,460,456	

収入額 29,969,020円 - 支出額 28,460,456円 = 1,508,564円 (次年度繰越金)

#### <事業会計>

##### 収入の部

##### 支出の部

(円)

科 目	予 算 額	収 入 済 額	科 目	予 算 額	支 出 済 額	備 考
前年度繰越金	408,973	408,973	事 務 費	100,000	0	卒業生動向調査
預 金 利 息	27	16	次 年 度 繰 越 金	309,000	0	
合 計	409,000	408,989	合 計	409,000	0	

収入済額 408,989円 - 支出済額 0円 = 408,989円 (現在残額)

## &lt;基本財産&gt;

(円)

科目	決算額	収入済額	備考
前年度繰越金	12,295,787	12,295,787	
預金利息	7,213	7,240	定期預金
合計	12,303,000	12,303,027	

## &lt;終身会費積立金&gt;

平成12・13年度 12,000,000 平成14・15年度 12,000,000  
平成16・17年度 11,000,000

## &lt;退職積立金&gt;

現在積立額 605,207円(平成6年度より年額50,000円)

## &lt;鳥取大学農学会&gt;

現在額 1,240,565円(定期預金)

## 平成18・19年度事業計画

事業計画案が事務局より提案され審議の結果、事業計画案も全会一致で承認されました。

- |                              |                         |
|------------------------------|-------------------------|
| (1) 総会開催 平成18年5月13日(土)       | (7) 卒業祝賀会の援助            |
| (2) 支部活動の強化                  | (8) 同窓会のあり方検討委員会        |
| (3) 会報の発行(第28・29号)           | (9) 農学部への寄付(鳥取大学農学会より)  |
| (4) 終身会費の推進、会費納入の向上          | なお、これまで農学部同窓会の方で預っていた鳥  |
| (5) 学科・コースへの助成               | 取大学農学会の基金は、農学部へ寄付することが了 |
| (6) 広報記録活動《就職ガイダンス、ホームページ作成》 | 解されました。                 |

## 平成18・19年度予算

学内幹事より予算案の説明があり、審議の結果、全会一致で予算案が承認されました。

## &lt;一般会計&gt;

平成18年4月1日

## 収入の部

## 支出の部

(円)

科目	決算額	備考	科目	決算額	備考
前年度繰越金	1,508,564	H18・19年度 終身会費 年度会費	事務費	600,000	事務用品、コピー代等
入会金	2,200,000		通信運搬費	600,000	電話料、郵送料等
会費	15,290,000		会議費	700,000	役員会、幹事会
預金利息	1,436		旅費	2,500,000	支部出席旅費
			支部援助金	1,200,000	支部総会、クラス会
			賃金	6,000,000	職員賃金、事務謝金
			会報発行費	3,500,000	第28・第29号
			慶弔費	100,000	祝、弔電等
			卒業祝賀会	1,400,000	平成18・19年度
			総会費	600,000	平成18年5月13日
			広報記録費	700,000	就職ガイダンス、ホームページ
			学科コース援助金	800,000	8コース
			備品費	100,000	
			退職積立金	100,000	平成18・19年度
			予備費	100,000	
合計	19,000,000		合計	19,000,000	

## &lt;事業会計&gt;

## &lt;基本財産&gt;

## 収入の部

## 支出の部

(円)

(円)

科目	予算額	科目	予算額	備考
前年度繰越金	408,989	事務費	100,000	卒業生動向調査
預金利息	11	次年度繰越金	309,000	
合計	409,000	合計	409,000	

科目	決算額	備考
前年度繰越金	12,303,027	定期預金
預金利息	6,973	
合計	12,310,000	

## &lt;終身会費積立金&gt;

前年度繰越金 35,000,000円 平成12・13年度 12,000,000円  
平成14・15年度 12,000,000円  
平成16・17年度 11,000,000円

## &lt;鳥取大学農学会&gt;

前年度繰越金 1,240,565円 鳥取大学農学部へ寄付

鳥取農学会は鳥取高等農業学校時代から退職教官の寄付金や浄財で運営され、年1回の研究報告「鳥取農学会報」を発行していたが昭和55年頃公的研究機関の学術誌を私的な会の金と校費を合せて出版することは会計法に触れると指導され、鳥取農学会の残余金は本同窓会で預かり管理してきた。これを農学部の教育・研究に役立ててもらうため奨学寄付金として寄付するものである。

## 役員改選

役員選考委員として、小原隆三 (A 28年卒)、堀川幸也 (C 32年卒)、丹松久夫 (V 26年卒)、盛田可男 (F 31年卒)、麻生昌彦 (E 44年卒)、小林 一 (B 48年卒) が選出され (敬称略)、審議の結果、全会一致で前期役員的全員留任を決定し、承認されました。新役員は、つぎの通りです。

会 長	西尾 遼富 (C 昭和22年卒)
副 会 長	秋藤 宏之 (A 昭和31年卒)
"	山口 享 (C 昭和31年卒)
"	林 隆敏 (V 昭和35年卒)
"	朝倉 晋 (F 昭和29年卒)
"	木村 肇 (E 昭和31年卒)
"	前田 千博 (B 昭和35年卒)

なお、学内副会長・常任幹事としては、以下の5名の教員が報告されました。

学内副会長	田邊 賢二 (A 昭和43年卒)
常任幹事	山口 武視 (A 昭和58年卒)
"	作野 えみ (N 平成10年卒)
"	實方 剛 (V 昭和46年卒)
"	山名 伸樹 (E 昭和46年卒)

総会は約1時間で終了し、その後、懇親会へと入りました。幅広い年代の会員が学生時代の思い出話や近況報告等で盛り上がり、盛会のなか、懇親会は午後2時頃に散会しました。

ところで、前述の通り、平成17年5月14日(土)の第1回会議に続いて、平成18年5月13日(土)午前10時より約1時間、第2回目の同窓会あり方検討委員会会議が開催されました。出席者は5名と少数でしたが、同窓会名簿作成の是非について集中的に議論し、同窓会活動を続けていくなかで名簿発行の意義は大きく、今後名簿を作成する方向で前向きに検討していくという結論に至りました。

(能美 誠・B 昭55年卒)

## 講座トピックス

### 生物生産学

平成17年度に生物資源環境学科の新しい教育体制がスタートしたことで、現在の3年生(平成16年度入学生)が生物生産学コースとして最後の学生となります。この学生たちは7月に研究室に所属し、各研究分野で元気に勉強に、研究に、時には遊びに励んでおります。

まずは引っ越しのお知らせです。昭和59年度に当時の農学科が農学部の新館に引っ越してから20余年が経ちました。昨年度、農学部の建物を改修したことに伴い、生物生産学の新館住人が本館に移転することになりました。新館には獣医学科が入ります。

移転先ですが、本館南棟東側1階に園芸学(田邊教授、板井助教授)と作物生産学(中野助教授、山口助教授、田中朋助教授)が入りました。2階に分子遺伝学(富田助教授)、3階に植物遺伝育種学(辻本教授、田中裕助手)と植物病理学(尾谷教授、児玉助教授)がいます。教員室は全面と言っていいくらいのガラス張りで、廊下から丸見えます。新しくなった研究室をどうぞ一度見に来てください。

次に本コースにとっては残念なお知らせです。作物生産学の田中朋之助教授が12月に京都大学に転出されます。平成11年に本学に赴任以来、熱心に研究と学生指導をされてこられました。京都大学でのま

すますのご活躍を祈念いたします。

最後は学生の就職状況ですが、卒業・終了予定者それぞれ進学・就職とほぼ行き先が決まってきました。特に今年は就職希望の学生は早くから内定をもらっており、就職戦線は良好のようです。

(山口 武視・A 昭58年卒)

### 応用生命科学

応用生命科学講座の近況をお知らせ致します。微生物生産化学研究室の北本 豊教授は、平成18年3月末日付で定年退官されました。先生は30年余りにわたり、農学部の研究教育に大きく貢献されたばかりでなく、日本菌学会の会長も勤められました。新たに日本きのこ学会を設立され、初代会長としてシイタケやエノキダケ、シメジなどわが国の菌床生産きのこ類の栽培技術確立や新品種育成に大きな足跡を残されました。今後のご健康と益々のご活躍をお祈り致します。

昨年は山野先生が獣医学科獣医生化学研究室教授に転任されたので、お2人の後任が決まるまで本講座は少しさびしくなりました。学部(修士課程修了者)および卒業生の進路をみますと、京都大学大学院その他有名大学の修士課程への進学者が多く、卒業生の皆さんの本学修士課程への進学者は少ない状態で少々さびしい感じです。就職戦線は良好です。

(田辺賢二・A 昭43年卒・同窓会事務局)

## 生産環境化学

同窓会の皆様には、お元気でご活躍のことと存じます。講座の研究分野の構成、講座の近況についてご紹介させていただきます。昨年度、学部の大規模な改組があり本講座での卒業生は来年度の卒業生（現在の3年生）で最後となります。本講座は、土壌学分野、生物環境化学分野、植物栄養学分野、生物有機化学分野、応用環境微生物学分野の5つの研究分野、9名の教員で構成されております。3月に植物栄養学分野の真鍋久教授が会津大学短期大学部に転出されました。本学部在職期間は、3年と短期間ではありましたが、これまで鳥取大学農学部にはなかった食品を御専門とされており教育研究にご尽力いただきました。新たな講座体制では、生産環境化学講座ではありませんが、新しく食品科学分野ができ、食品を専門とされる渡辺文雄教授が着任されました。植物栄養学分野は現在山田智助教授が一人でご活躍です。土壌学分野の本名俊正教授は農学部長として、応用環境微生物学分野の中島廣光教授は農学部副学部長として精力的に活躍されています。また、生物有機化学分野の河野強助教授および木村靖夫教授はこの度、日本農芸化学会2006年度大会において論文賞を受賞されました。木村靖夫教授はお元気でご活躍ですが、残念ながら平成18年度をもって定年を迎えられます。生物環境化学分野の藤山英保教授はメキシコ、中国などへ、土壌学分野の山本定博教授はカザフスタン、中国などへ出張され国際的に活躍されています。また、10月には生物環境化学分野の岡真理子講師が留学先のドイツから帰国されました。

春秋年2回のソフトボール大会は学生の参加率も高く引き続き開催されております。教員・学生皆真剣に優勝をねらいボールを追い、その後の打ち上げも含め教員と学生の親睦を深める良い機会となっております。また、県民文化会館において行われる公開での卒論・修論発表会も充実した学生生活の思い出の一つとなっているようです。新たな体制では教員の構成も変わっておりますが、各教員ますます教育・研究に力を入れ農学部の発展のために努力してまいりますので、今後とも温かいご支援をよろしくお願い申し上げます。

（作野 えみ・N平10年卒）

## 生存環境学

生存環境学講座の近況をご報告いたします。この1年間に本講座の教員には大きな動きがありました。吉田勲先生、長谷川紘一先生は3月31日付けで定年退職され、また、原田昌佳先生は九州大学農学部へ助教授として転出されました。一方、転入では4月1日付けで清水克之先生が講師として着任されました。大学院修士課程（生存環境学）関係では、乾燥地研究センターの神近牧男先生が定年退職されました。転入では、1月5日付けでフィールドサイエンス（FS）センターへ山名伸樹先生（E昭46年卒）が、また4月1日付けで乾燥地研究センターへ篠田雅人先生がそれぞれ教授で着任されました。

したがって、本講座は地圏環境保全学（田熊、猪迫）、水利用学（北村、清水）、基盤造構学（服部、緒方）、生物生産機械学（岩崎）、生物生産システム工学（唐橋、三竿）の5分野9名の教員で構成されています。大学院修士課程では、これにFSセンター（山名）、乾燥地研究センターの乾地自然環境学（篠田、木村）、乾地水資源学（安養寺、安田）、乾地土地保全学（山本、井上）の7名の教員が加わります。

法人化して3年目を迎え、膨れ上がる一方の雑務に辟易しながらも、教員一同教育研究活動に勤しんでおります。岩崎教授は引き続き研究・国際交流担当理事として多忙な日々を送っています。

在校生は学部生が3年生40名、4年生35名、大学院生が修士課程1年15名、同2年生12名、博士課程10名となっています。なお、昨年4月に大幅な学部改組が行われたため、生存環境学コースの学生は現3年生で最後となります。2年生以下は新しいシステムの下で、教育を受けております。学部3年生は、この夏インターンシップで貴重な現場体験をしました。彼らにとってこの体験は今後の勉学に大いに活かされるものと思います。4年生は卒論、就職活動、進学準備に、多忙な1年間を過ごしています。大学院生もそれぞれの目標に向かって努力しております。

最後に、当講座はJABEE（日本技術者教育認定制度）の認定を目指して、鋭意準備を進めています。同窓生の皆様のご協力をよろしくお願い致します。

（北村 義信・E昭46年卒）

## 森林科学

同窓会員の皆様には益々お元気にてご活躍のこととお喜び申し上げます。まず始めに久々にビッグな嬉しいニュースをご報告させていただきます。平成18年9月26日、戦後生まれ初の首相となった安倍晋三総理大臣の閣僚として林学科44年卒（F大17回）の松岡利勝氏がめでたく農林水産大臣にご就任されました。林学科同窓会関係者一同これに勝る喜びはなく、心からお喜び申し上げますとともに、わが国に再び活力ある地域農林水産業が興隆することを願って、益々のご活躍とご発展をお祈り申し上げます。

では、早速コースの近況をご報告いたします。平成17年3月には、元学部長の作野友康教授（林産工学）が退官され名誉教授になられました。時を同じくして川田俊成助教授（林産化学）も京都府立大学に転出されました。国立大学の独立法人化によって学部運営システムが大きく変わり、欠員教員の補充も従来のようにいなくなりました。それもあって林学系教員は一昔前と比べ少なくなり、教員の専門性も変化しつつあります。

平成17年度入学生からは、またまた学部組織の改変があり、1人1分野制となって、森林系は昔の農業工學土木系と林学系とが一緒になって立ち上げた環境共生科学コースの中で次のような教育研究分野（分野担当教員）を担当しています。緑地防災学分野（奥村武信教授、19年3月退職予定）、森林計画学分野（黒川泰亨教授）、景観生態学分野（長澤良太教授）、環境木材科学分野（古川郁夫教授）、造林学分野（山本福寿教授）、森林利用システム学分野（市原恒一助教授）、水土保持学分野（本田尚正助教授）、森林数理生態学分野（井上昭夫講師）に加えて、旧の農場と演習林が合体して17年度より新しく発足したフィールドサイエンスセンターの教育分野として森林生態系管理学分野（佐野淳之助教授）と生態工学分野（日置佳之助教授）があります。さらに旧森林科学コースの林政学分野（八木俊彦教授、19年3月退職予定）があり、これら11教育分野で学部学生の教育と研究にあたっています。修士の体制も20年度から新しくなる予定です。最後のもう一つの良いニュースとして森林技術協会主催の全国学生

卒論コンテストで、山本福寿研究室の専攻生が林野庁長官賞を受賞しました。鳥取大学森林系として長官賞はこれで3度目であり、長官賞以外の賞も何度か受賞しています。地方大学としては、よくやっているほうだと自負しています。

いろいろなことが新しい流れに変わりつつあります。丁度、教員の交代時期でもあり、新鋭の先生方が新しい理念と情熱でこれまでになかった新しい研究領域を切り拓きつつあります。外から見れば、森林系の姿がちょっと見えにくいかもしれませんが、中身は着実に充実しつつあります。どうか前にもまして温かいご支援と応援をよろしくお願い申し上げます。

（古川 郁夫・環境木材科学）

## 農業経営情報科学

これまで、われわれ講座の教員全員で食料経済学コースの教育を担ってまいりました。しかし、「幅広く食料の生産から流通・消費までを教育する」というわれわれの強い意思表示のために、コース名をフードシステム科学コースと改名して2年が経過します。今年の3月に、定年を待たずに病氣療養のために笠原浩三先生が退職され、また、九州大学に伊東正一先生が転任されています。したがって、現在（平成18年8月14日）、講座のスタッフは、次のように教員が8名で、職員2名です。

### 地域産業計画学分野

能美 誠 教授・松田 敏信 助教授

### 食料政策学分野

古塚 秀夫 教授・大津 亨 助教授

### 農業経営学分野

小林 一 教授・佐藤 俊夫 教授

松村 一善 助教授

### 農産物流通学分野

小林 一 教授(兼任)・万里 助教授

事務補佐員

前川 薫・丸山 順子

また、現在（同）の講座に分属している学生数ですが、博士課程5名、修士課程15名、4年生21名、3年生21名、研究生3名です。新しいコース名にしてはじめて分属したのが2年生（29名）です。分属

した人数から判断して、フードシステム科学コースにしたのは正しかったと確信しています。また、看板に偽りのない教育の実践に努めなければならないとスタッフ一同考えています。

（古塚 秀夫・B昭51年卒）

## 獣医学科

同窓の皆様にはお元気でご活躍のこととお慶び申し上げます。獣医学科の近況をお伝えいたします。

獣医学科長には太田康彦教授が選任されましたが、10月より副学部長に選出されたため、来年3月まで菱沼貢教授が学科長を務めることになりました。最近、獣医学科に新しい研究室が誕生し、また教員数も増えております。会員の方々からたびたび問い合わせを受けますので、現在の研究室名と教員を報告させていただきます。研究室：16 教員数：26名

### [獣医学科]

獣医解剖学：上原教授、今川助教授

獣医生理学：渋谷教授、北村助教授

獣医薬理学：佐藤教授、齋藤助教授

応用動物学：(兼)太田教授

獣医生化学：山野教授、浅野助教授(10月着任)

獣医微生物学：村瀬教授(10月昇任)

獣医公衆衛生学：伊藤(壽)教授、伊藤(啓)助教授

実験動物学：太田教授、岡本助教授

獣医病理学：島田教授、森田助教授

獣医感染症学：實方助教授

獣医内科学：日笠教授、松鶴助手(5月着任)

獣医外科学：南教授、岡村助手

獣医神経病・腫瘍学：(兼)岡本教授、辻野講師

獣医繁殖学：菱沼教授、永野助手(4月着任)

獣医臨床検査学：竹内助教授、杉山助手(4月着任)

獣医画像診断学：(兼)南教授、柄助手(4月着任)

第2期の農学部改築が終わり、10月から獣医解剖学、獣医生理学、獣医薬理学、応用動物学、獣医公衆衛生学、実験動物学、獣医病理学、獣医感染症学は農学部新館に、獣医微生物学、獣医繁殖学は連大に、獣医生化学は本館に移りました。住所とメールアドレスに変更はありませんが、電話番号が変わっている場合があります。連絡が取れない際には鳥取大学ホームページ内の大学職員録/獣医学科

(<http://staff.zim.tottori-u.ac.jp/result.php?col1=340000&co13=&kanji=&kana=&shoku=&tel=&dia=&#070140>)  
でご確認下さい。

（實方 剛・V昭46年卒）

## 附属フィールドサイエンスセンター

附属農場と附属演習林を統合し、普及企画部門を加えた附属フィールドサイエンスセンター（FSC）が発足して2年目に入りました。

同窓会会員各位におかれましてはますますご健勝にてご活躍のこととお慶び申し上げます。さてFSCは中田昇センター長（A昭49年卒、教授、生物生産部門担当、栽培技術学）を筆頭に、生物生産部門・田村文男教授（A昭57年卒、園芸生産学）、普及企画部門・唐橋需教授（生物生産システム工学）、森林部門・佐野淳之助教授（森林生態系管理学）、日置佳之助教授（生態工学）の教員5名でスタートしましたが、平成18年1月、普及企画部門に山名伸樹（E昭46年卒、生物生産機械学、教授）が生物系特定産業技術研究支援センターから着任し（大リーグ的に言うと「オールドルーキー」です）、現在、3部門合計6名体制で学生の教育・指導、そして研究にと汗を流しています。

FSCは農地や森林などのフィールドを活用した研究、教育、地域貢献の実践と農学部における総合的なフィールド科学の情報発信基地としての機能を担うことが任務となっています。個々の研究の一方で、ここ鳥取をベースとして、農業の持つすばらしさ、楽しさ、大切さを、そして時には厳しさをいろいろな場を通じて発信していきたいと考えています。会員各位のご支援、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

（山名 伸樹・E昭46年卒）

## 附属菌類きのこ遺伝資源研究センター

菌類きのこ遺伝資源研究センターが設置されて2年目となりました。まだ研究室や研究設備等は不十分ですが、きのこの研究を希望する学生が予想以上に多く、教育研究体制の充実に向けて努力しているところです。本センターは3部門でスタートしました。「菌類きのこ環境生態研究部門」は、前川二太



郎教授 (A昭53年卒) と児玉基一朗助教授 (兼務)、「菌類きのこ分子遺伝学研究部門」は中島廣光教授 (兼務) と会見忠則助教授 (兼務)、「菌類きのこ機能開発研究部門」は鳥取県の寄附部門で松本晃幸客員教授 (C昭52年卒) と霜村典宏客員助教授 (A昭62年卒) がそれぞれ担当しています。さらに、本年度は文部科学省の予算が認められて「菌類きのこ遺伝資源評価保存研究部門」が新設となり、岩瀬剛二教授 (本年8月着任) と須原弘登講師 (本年7月着任) が担当しています。現在、これら4部門が連携して、きのこを中心とした菌類の遺伝資源の蓄積・保存並びにこれらの遺伝資源を活用した生物機能の解明に関する研究に取り組んでいます。

本年度も農学部棟の改修工事が続いているのですが、その一環として農産加工室 (農学部棟北西側にある建物) も改修されることになり、来年4月から、ここにセンターの看板を掲げて「菌類きのこ環境生態研究部門」と「菌類きのこ遺伝資源評価保存研究部門」が入る予定になっています。同窓会の皆様には来学の折にぜひお立ち寄り下さい。

(センター長・尾谷 浩・A昭45年卒)

### 附属動物病院

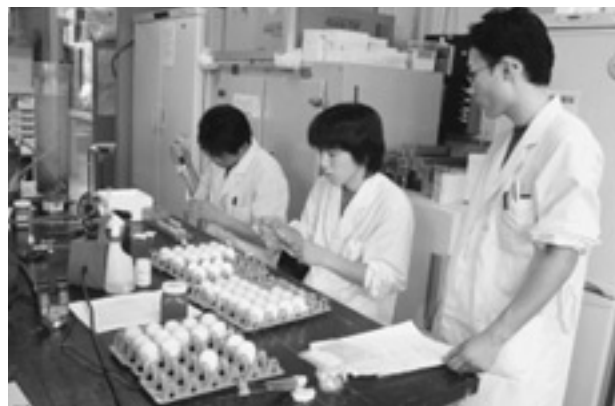
附属動物病院は獣医師養成の教育病院として、また、社会で活躍する獣医師の卒後教育および地域社会への高度医療サービス施設としての役割を担っております。現在の臨床獣医学分野の教員は、内科学 - 日笠喜朗教授、松鶴 彩助手、外科学 - 南 三郎教授、岡村泰彦助手、神経病・腫瘍学 - 岡本芳晴教授、辻野久美子講師、獣医繁殖学 - 菱沼 貢教授、永野昌志助手、臨床検査学 - 竹内 崇助教授、杉山昌彦助手、画像診断学 - 柄 武志助手の計11名であります。本年度、永野昌志先生、杉山昌彦先生、柄 武志先生、松鶴 彩先生の4名の先生が着任され、臨床スタッフが一層充実されました。今後の新たな臨床分野として獣医薬物治療学が予定されています。さらに、動物看護師として松本静香さんと溝口絵美さんの2名、事務員として岩城大祐さんが業務を行っております。大学附属動物病院には他の獣医師への情報提供の義務および他の獣医師からの診療施設紹介としての使命がありますが、今後は、病理組織検

査および細胞診なども含め、診断情報の提供サービスも充実させたいと思います。そのため、動物病院としまして専門診療獣医師を充実させ、高度医療をさらに進展させるとともに、地域開業獣医師との連携と高度な診療情報提供サービスを推進させ、本学部の地域社会に対し一層貢献できるように、スタッフ一同が鋭意努力する所存であります。同窓諸氏のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。最後になりましたが、同窓生の皆様方の益々のご健勝とご発展を祈念いたしております。

(竹内 崇・V昭61年卒)

### 附属鳥由来人獣共通感染症疫学研究センター

近年、BSE、SARS、高病原性鳥インフルエンザなどの人獣共通感染症が出現して大きな社会問題になっています。本センターは平成17年4月、我が農学部にて、国内唯一の鳥由来感染症研究センターとして、鳥インフルエンザ等の鳥類から人に感染する感染症への対策を確立する目的で設立されました。本センターは病態学研究部門、疾病管理学研究部門および分子疫学研究部門の3部門からなり、鳥由来感



抗ウイルス活性を有する新規物質の検索



山階鳥類研究所との共同野鳥捕獲調査

配置されています。

とくに最近、世界的に重要な問題となっている鳥インフルエンザについては、国内研究機関（動物衛生研究所、国立感染症研究所、山階鳥類研究所、北海道大学人獣共通感染症センター、東京大学医科学研究所、長崎大学熱帯医学研究所など）はもとより、国外の研究機関（韓国国立検疫科学研究所、米国農務省 Southeast 家禽研究所、ベトナム国立衛生疫学研究所、中国ハルピン獣医研究所など）や産業界（食品流通業界、養鶏業界、薬品業界、医療機関など）とも積極的に共同研究を行い、本病の出現予測、病原体の生態、病原性、遺伝子性状の解析等を実施しています。その他、鳥由来感染症として重要なサルモネラあるいは西ナイル熱などの対策にも国際的な規模で取り組んでいます。

このように、本センターでは今後我が国に侵入する恐れのある鳥由来人獣共通感染症を早期に発見し、その流行を未然に防ぐことを使命として、日夜、広範な調査研究活動を行っています。

（センター長・伊藤 壽啓）

### 乾燥地研究センター

今年の夏は、7月の梅雨が長く豪雨被害をもたらしたかと思うと、8月が一転して酷暑になり、連続真夏日が37日間、降水量は僅か37mmの厳しさでした。在職年数が最も長い山本から、同窓会員の皆様に、

乾燥地研究センターの近況を報告させていただきます。研究スタッフの新旧交代が著しいセンターですが、今年は神近牧男教授が3月31日で定年退職をされました。長年、研究教育に尽力されましたが、特に最終年は変革期におけるセンター長の重責を担われました。

今年度は、乾地環境部門の篠田雅人教授、木村玲二助教授（自然環境分野）、安養寺久男教授、安田裕助教授（水資源分野）、生物生産部門の安 萍助教授（生理生態分野）、恒川篤史教授、坪 充助教授（植物生産分野）、緑化保全部門の玉井重信教授、山中典和助教授（緑化・草地分野）、山本太平教授、井上光弘助教授（土地保全分野）、総合的砂漠化対処部門の縄田浩志講師に、国内客員教員3名、外国人客員研究者3名、さらに若手のポスドク研究員16名、事務・技術職員8名及び学生44名を加えた総数93名のスタッフで始まりました。特に、最重点プロジェクトとなる、21世紀 COE プログラム「乾燥地科学プログラム」が最終年、日本学術振興会拠点大学交流事業が第2段階の初年度になり、連日活気ある研究活動を展開しています。新センター長・恒川教授（45歳）、4月着任の篠田教授（46歳）と坪助教授（38歳）等々、新進気鋭の若い世代が中心になり、新しい乾燥地研究の完成に向かって動き出しました。

（緑化保全部門・山本 太平）

## 支部だより

### 北海道支部

澤 向 豊（V昭43年卒）

2006年6月4日（日）、札幌市で第9回北海道支部総会が開催された。総会には、特別会員5名、会員18名、そして本部から田辺賢二副会長（A昭43年卒）が出席した。村田修身支部長が議長に選出され、幹事澤向豊（V昭43年卒）から2年間の事務および会計報告、また監事角厚志（B昭34年卒）から会計監査報告があり、いずれも承認された。次に、事務局から次期総会（2008年6月）までの活動計画、新



規予算および支部規約の一部改正が提案され、これらの案件も承認された。今後2年間の役員として、支部長村田修身（F昭32年卒）、副支部長井上詳介（V昭39年卒）、幹事澤向豊（V昭43年卒）、監事角

厚志 (B昭34年卒)、そして監事山下和人 (V昭62年卒) の現役員が再任された。なお、2006年6月現在の北海道支部会員数は特別会員9名、一般会員70名: 農学4名、農芸化学5名、獣医33名、林学15名、農業工学 (土木) 10名、農業経営 (総農) 3名で、同窓会名簿の発行がストップして以来、新たな道内生活者の動向が把握できない状況にある。

議事終了後、田辺教授から独立法人化3年目の母校の近況説明があった。本学は、交付金が毎年9,000万円減額され、充実した研究体制の維持には外部資金の導入が必須になっている。国立90大学の中では、18番目に経営状態が良いと評価されているが、これは人件費の削減、退任教授の増加などによるものであり、現職は経費削減を求められ、日々努力されている様子を聞き入った。

懇親会では、久しぶりに若々しい新会員4名を囲み、在職、在学中の思い出話に花を咲かせた。また、田辺教授が持参した鳥取産米で作られた地酒を飲み交わしながら、交流を深め、2年後にまた元気な姿で再開することを約束した。

### 静岡県支部

望月啓司 (V昭49年卒)



平成17年度鳥取大学農学部同窓会静岡県支部総会を、毎年恒例になっている1月第3日曜日 (平成18年1月15日) の午後1時から静岡市内のホテル「マイホテル竜宮」で開催しました。

本部からは、獣医臨床検査学分野竹内助教授がお忙しい中をご出席くださり、大学の近況などについて、分かりやすくお話をしてくださりました。

今回の参加者は24名で、現在の農業を取り巻く情勢と同様に、会員の高齢化と後継者不足で年々減少傾向にあります。何とか多くの参加者を集めようと、各科の幹事が毎年集まり、対応策を検討し、一芸を披露するとか、女性や若い人は会費を安くするなど

の試みを行っていますが、なかなか抜本的な妙案が見当たらないのが現状です。

また、今年度は、総会において役員改選が行われ、平成7年度から11年間に亘り支部長を務められました松南徹氏 (E昭33年卒) に代わり、18年度からは花村悦男氏 (V昭43年卒) が支部長に就任することになりました。

総会後の懇親会では、相変わらず年齢を感じさせない飲みっぷりで、楽しい笑い声と懐かしい会話が会場に響き渡り、最後は恒例どおり「貝殻節」の斉唱で閉会になりました。

今年度の幹事は獣医学科でしたが、来年度は農業工学科です。今年4月に伊豆半島の先端の静岡県賀茂農林事務所に異動した亀崎茂男氏 (E平2年卒) が中心となって開催されることになっています。多くの会員の皆様の参加を期待しています。

### 京都府支部

片岡光信 (A昭50年卒)

京都府支部 (京都府砂丘会) は、現在会員数321名 (農学科54名、農学化学科41名、獣医学科71名、林学科52名、農業工学科64名、農業経営学科39名) で、会の発足は、平成3年です。隔年に総会・懇親会を開催しており、今年2月25日に第8回を37名の参加を得て盛大に開催いたしました。会場は京都府北部の方が多いいこともあって、JR二条駅前 (もう少しで京都) の会場で行うことが定着しております。今回は本部副会長の田邊賢二先生に御出席いただき、花を添えていただきました。また、各学科ごとにも活発な活動が行われています。獣医学科、林学科、農業工学科等は非常に元気な会員が大勢おられます。獣医学科の方からは、もっと盛大にやっているとお聞きし、頑張らないといけないと反省しています。また、農業工学科 (だいせん京都支部) でも活発な活動がなされており、昨年は、田熊勝利先生にお越しいただいています。この集まりは、「一杯飲み」だけではなく、「第29回全国土地改良大会京都大会」 (10月10日、京都国際会館) の実働部隊ともなっています。しかし、会の運営としては、大先輩の出席が減少してきたこと 所在不明の方が増加していること 京都府内に就職している若い卒業生が不明なことなどの問題があります。住所確認などはEメール等があれば連絡がとりやすいと思うのですが、個人情報等の問題もあり、なかなか難しいのが現状です。よい考えがあれば御教示ください。なお、

今回の総会で発足メンバーで、監事を長い間お願いしておりました、平田喜久夫（V昭20年卒）、永井修（F昭23年卒）、宇山 杠（E昭25年卒）の3名が御退任されました。長い間御苦労様でした。

新役員は次のとおりです。

支部長：藤野真澄（B昭29年卒）  
 事務局長：佐々 勤（F昭39年卒）  
 監 事：大江義昭（F昭41年卒） 島本靖二（V昭45年卒）  
           橋本雅夫（E昭51年卒）  
 会 計：片岡光信（A昭50年卒）  
 評議員：川戸義行（B昭37年卒） 矢野小夜子（V昭59年卒）  
           木村 均（F昭60年卒） 田淵 功（E平01年卒）  
           宮崎英俊（C昭60年卒）

（同級生の名前があった方などは是非電話等連絡をして旧交を温めていただいでどうでしょうか。）

### 岡山県支部

西山英利（B55年卒）



鳥取大学農学部同窓会岡山県支部（会長：奥田宏健V昭44年卒）は、平成18年8月5日（土）、2年ぶりの支部総会を岡山市奉還町の「岡山国際交流センター」において、56名の参加を得て盛大に開催しました。当日は、同窓会本部から田辺賢二教授をお迎えし、大学の現況についてお話をいただき、大きく変貌を遂げる母校の様子に、学生時代を思い出し、時の流れの早さに隔世の感ひとしおでした。母校の個性あふれ魅力ある教育と研究が益々発展し、第二のふるさと鳥取へ貢献して欲しいとの思いは、出席者全員の願ってやまないところです。

総会は、佐古節夫（F昭45年卒）代表幹事の司会進行により、活動報告と役員改選を行い、18～19年度の役員は、支部長：奥田宏健、副支部長：小童谷昭治（E昭43年卒）、代表幹事：佐古節夫の3氏の留任となりました。

懇親会は、出席者の最年長の橘川泰治氏（C昭和

23年卒）の乾杯の音頭により始まり、和気あいあいの中にも話が弾み、瞬く間に時も過ぎ、宴もたけなわとなったところ大先輩方による恒例の高農校歌と啓成寮歌の合唱となりましたが、いつもながら鳥取大学校歌は、声が小さかったような気がするのはいのせいでしょうか。

時代は違えど、同じ学舎で学んだ？同窓の仲間ですから、多くの若い同窓生の皆さんにも次回は、是非ともご参加いただき、鳥取大学校歌を大声で歌って、先輩方を圧倒しましょう。

### 山口県支部

原 田 直（A昭61年卒）



山口県支部では、8月26日（土）、山口市小郡「山口グランドホテル」にて、平成18年度の総会を開催しました。本部より田辺賢二先生をご来賓に迎え、総勢30名の出席となりました。総会では、会長に藤岡正美（A昭45年卒）、副会長に中野正夫（C昭45年卒）の留任と、事務局には新しく黒井大（F昭63年卒）、宍戸隆（F昭63年卒）を選出しました。

その後行われた懇親会では、今年の総会で意見の出た「鳥取の思い出」を作成、配布しました。執筆者は「吉方校舎での入学から敗戦まで」堀真雄（A昭23年卒）、「若櫻街道に霧が流れる」粟屋芳信（A昭24年卒）、「60年前の鳥取での学生生活」岡村和彦（A昭24年卒）、「鳥取時代の思い出」春日文雄（F昭25年卒）、「ガクシタノム」横畠吉彦（A昭36年卒）、「鳥取の思い出 ～大学生活～」藤岡正美（A昭45年卒）の計6名の方でそれぞれの方から、青春の熱い思いのこもったコメントを頂きました。参加者からは、また来年も青春の思い出を文書に残しておくという意見が出されました。

その後も学生時代の思い出でや近況報告に話が盛り上がりました。同窓生とは不思議なもので、それぞれ時代は違うものの同じ学舎に志を同じくいたということが自然と時代を超えて親しくうちとけること

ができる貴重な輪になると深く感じたところです。

会の後半には、応援団長栗屋芳信先輩（A昭和24年卒）の「アイン、ツバイ、ドライ」の指揮、指導により「鳥取高等農林専門学校校歌」（大海原の水うけて...）と「啓成寮寮歌」（千古尽きせぬ海の音...）の大合唱を全員で行いました。

来年度以降もより充実した同窓会となるようみんなで盛り上げていきたいと考えています。

### 香 川 県 支 部

田 川 恵 富（V昭和59年卒）



香川県支部には現在、計82名の会員が所属しています。支部活動としては、2年に1回開催される支部総会および懇親会を主たるものとしています。

その支部総会および懇親会が平成18年9月24日に本学より山口武視先生（農学科昭和58年卒）をお迎えして、盛大に開催されました。

総会ではまず、小川支部長（農業工学科昭和30年卒）の挨拶で幕を開き、山口先生より最近の母校の動向、同窓会の状況等について盛り沢山のお話をいただき、会に花を添えてくださいました。

四国の地である当県在住の同窓生諸氏はそう頻りに母校を訪れる機会もなく、変わりつつある母校の恩師や姿を目にすることもありません。農学部の改築工事が進んでいることもまさに山口先生の言葉より得る情報であり、話の内容全てが新鮮であり郷愁をそそるものでした。話題が会費のこととなると耳の痛い内容で苦笑いする顔も見受けられました。

それと、当支部においては数回前の総会から出席者の顔ぶれがほとんど変わらず、出席者の平均年齢が上昇し続けています。前回と変わらず元気でお互い顔を見せるということは大変いいことですが、若い活力ある方々が出席しないということは将来を考えたとき心配になってきます。色々手を尽くしてお誘いはしていますが、なかなか出席してもらえません。同窓というだけでは一堂に会するのが困難

な時代になったのでしょうか。同窓会本部の方々、また、他支部の方々でいい知恵等がございましたら、ご指導いただけたらと思いますので、よろしくお願いいたします。

総会が終わった後は待ちに待って懇親会です。2年ぶりに変わらず元気に会うことができた喜びに酒が潤滑油となり、会員同士先ほどの難しい顔はどこへやら、和気藹々で歓談となりました。話題に花が咲き、時間が経つのも忘れて楽しいひと時を過ごしました。

最後に香川県支部および母校の今後ますますの発展を祈念しつつ、2年後の再会を約束して、盛会のうちに懇親会を閉じました。

1次会終了後は気心の知れたもの同士、高松の夜の街へと消えていきました。

### 沖 縄 県 支 部

多嘉良 功（V昭和59年卒）



平成18年10月2日（土）の夜、沖縄県支部総会が那覇市内「寿々」において、母校より山口武視常任幹事（A昭和58年卒、生物資源科学講座助教授）および作野えみ常任幹事（N平10年卒、生物資源科学助手）をお迎えし、8名の会員の出席のもとに開催されました。

下地氏の司会進行のもと、仲舛副支部長の開会の挨拶により南の島の宴が始まりました。

知花さんによる乾杯の音頭に次いで、山口先生から大学の近況についてお話を頂きました。

鳥取大学も平成16年4月より独立行政法人となり、現在農学部は、生物資源環境学科および獣医学科の2学科に分かれていること、また鳥インフルエンザなど社会的にインパクトの大きな鳥由来人獣共通感染症における防疫対策の確立に貢献するための国内で唯一の「鳥由来人獣共通感染症疫学研究センター」の設立について報告がありました。

## 人・顔・人・顔



岩崎 薫 (A昭54年院卒)  
独立行政法人 国際協力機構  
中国国際センター次長 (兼総務チーム長)

昨年、中国地方5県を所管するJICA中国に着任した。それ以来、鳥取を訪問する機会が多い。JR大学前駅や9号線バイパスなど、湖山界隈の変貌には驚かされる。一方、岩崎正美理事や本名俊正農学部長他、当時お世話になった恩師の懐かしいお顔にホッとす。135円のB定食を少し贅沢な気持ちで食した、あの学生食堂のテラスに腰を下ろす。学生時代に思いを廻らす共に、周りの学生達の会話に耳を傾ける。歳月は四半世紀以上過ぎたが、学生も大学も湖山も、その本質は変わっていない。鳥取大学は、今も元気で活気がある。

昭和52年に、農学科（育種）を卒業した。海外での仕事を希望して、新設の砂地乾地植物生産学講座を修了し、54年にJICAに就職した。政府開発援助（ODA）の実施機関である。国内での知名度はいまひとつの声も聞かれるが、開発途上国でのJICAは、想像以上に市民レベルにも知られている。そして、期待も大きい。

2001年までJICA事務所長を務めたパプアニューギニアでは、毎日のように各地の村落の代表達が陳情にやって来た。その8割が、村落給水施設か村落間道路整備への協力陳情である。雨水を溜めるタンクどころか、集水のためトタン屋根も見られない村落が多い。雨が続けば、崩落・濁流・ひどい泥濘のために道路が寸断し、保健や教育サー

所用により少し遅れて会場に到着した池田支部長（F昭29年卒）による二度目の乾杯の音頭の後、記念撮影、会員の近況報告と会は進んでいきました。特に今回は、又吉正直さんが夫人同伴で参加され、宴に花を添えると共に会を盛り上げて頂きました。

鳥取から持ってきて頂いた「強力」と琉球泡盛でほろ酔い気分になった頃、2次会へ場所を移し、カラオ

ビスへのアクセスが機能しなくなる。国家開発計画の実現可能性とコミュニティの主体性を見極めて、技術面で側面支援することがJICAの仕事である。パプアニューギニアから帰任後、南西アジア・大洋州課長として、インド、パキスタン、バングラデシュ等への援助方針の策定を担当した。大国インドの政府高官は、日本からの援助受入れ理由を国民の貧困解消ではなく、「単なる国際基準・規格の導入」と豪語した。バングラデシュの農村女性グループによるトイレ建設活動に接し、「世界を変えるのは女性・母親」との確信を深めた。民族紛争後の援助再開の準備のために、大量の地雷や不発弾が残るスリランカ紛争地域を3度訪問し、平和構築と復興開発の困難さを身に沁みて感じた。その後、農村開発部中東・アフリカ担当グループ長としてアフガニスタン復興に携わり、帰還難民コミュニティ支援や国立農業試験場再建のプロジェクト設計を直接指揮した。

JICA奉職以来28年、大きなやり甲斐のある仕事に満足する。他方、途上国の貧困を目の前にして、自身の力不足を感じざるを得ない現時もある。しかし、平和で豊かな世界を目指して、日本の国益にも繋がる国際益を見据えた国際協力に、今後も邁進したい。



ケでかいがら節、島んちゅの宝を歌い母校との絆を一段と深めつつ沖縄の夜は楽しく過ぎて行きました。

## 秋の叙勲

平成18年秋の叙勲にて古池壽夫氏（農学科昭和22年卒）が瑞寶中綬章を受章されました。

## 人・顔・人・顔



福光 康治 (E昭54年院修了)  
アグリテクノ矢崎㈱  
代表取締役社長

## 日本の播種技術を世界に

私は、最終学年の時、あらゆる公務員試験に落ち、多くの企業から不採用という結果となってしまいましたが、恩師（小松実教授）の御紹介により農機具メーカーに入社することができました。小規模でしたが、販売・開発・製造・管理部門を有する自立した会社でしたので、数年後には、製造業というものを大まかに理解することができるようになりました。

しかし、個人的な目標が見つからず悩んでおりましたところ、恩師が「これからは、カプセルに入っている種を無菌の土の中に播く技術が必要になる」と言われていた事を思い出し、播種技術と連作障害を防ぐ技術を中心に事業を進めていくことを決意しました。ある時、欧州の農業を視察する機会があり、播種技術を世界に向けて展開する自信を深めました。

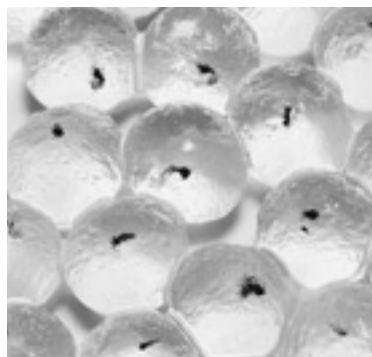
その後、コート種子・芽出し流体播種・カルパー粉剤を利用した水稻直播・不耕起播種等の技術を経験し、機械の普及に務めてきました。今では、穀物・野菜・花に関する播種技術を日本だけでなく韓国でも生産販売するに至っております。将来、中国で日本の播種技術が役にたつことを夢見て、昨年上海に駐在所を設立しました。中国でビジネスが可能となれば、世界展開できると思います。

また一方では、恩師の言われた事をベースに全く新しい播種技術を研究し、普及の段階に入っております。それは、ゲル剤でコーティングされた種子から芽と根を出した状態で播種するという直播と移植の中間の技術です。この方法により、水稻直播・間引の省略・機械による一斉収穫・冷蔵処理等の農業技術に大きく貢献するでしょう。更

にこの技術を応用すれば、植物の小さな成長部分をゲル剤で保護することもできますので、差木・球根・根茎を植付けていく従来技術にとってかわり、大きく省略化できます。

今後、農業は、国土保全や国家自立のためだけでなく、地球規模で発生する食料及びエネルギーの不足や環境問題を解決する手段として最も重要な産業となるでしょう。

最後に、鳥大農学部の子学生の皆さんに、企業の経営者としてお話したいことがあります。農学は、文化宗教から始まりあらゆる学問を含めた超応用科学であり、これからの地球や人類にとって最も大事な学問であることに誇りを持って下さい。また、大学で得た知識を活かすために、就職先として公務員や大企業を目指し、安定した将来を望むのも一つの考えではありますが、小さな会社で苦勞し事業を体で学ぶことにより、自分の夢を実現する道もあることを知って欲しいと思います。



芽出したトルコギキョウ (ゲルコート種子)



ドリルシーダによるそばの播種 (北海道)

## 鳥取大学シンボルマーク、 イメージキャラクターの募集要項

鳥取大学は、地域にひらかれ、地域とともにあゆむ大学としてあらゆる分野に人材を輩出してきました。そして、鳥取大学は「知と実践の融合」を教育・研究理念に掲げ、平成16年の国立大学法人化を契機に、従来にも増して教育、研究、社会貢献、診療などの各分野の充実及び改革に取り組み、また、いま、社会で求められている教養豊かで、人間力のある人材の養成に力を注いでおります。

そこで、学生・地域の皆様によりいっそう鳥取大学へ親しみを感じてもらうため、また、大学構成員の連帯意識を高めるとともに、地域社会に鳥取大学をアピールすることを目的とし、鳥取大学にふさわしい大学のシンボルマーク、イメージキャラクターを制定し、広く広報活動に活用したいと考えております。

つきましては、下記の要領で募集しますので、たくさんのご応募お待ちしております。

### 記

1. シンボルマーク、イメージキャラクターのイメージ：鳥取大学をイメージ出来、かつシンプルで記憶に残るもの。
2. 応募資格：本学学生・教職員及び卒業生
3. 応募締切：平成18年12月28日(木)必着
4. 応募規定：
  - ・ A 4 板の白色紙に手書きもしくはプリントアウトされたもの(電子媒体を添付しても良い)。
  - ・ 図案は正面図とする(参考資料として、側面・背面のラフデッサンを提出しても良い)。
  - ・ 図案はカラーで色数は4色まで。
  - ・ 自作かつ未発表のもので、他に類似の作品がないものに限る。
  - ・ イメージキャラクターの愛称とコンセプトをそえて提出のこと(応募用紙に記入のこと)。
5. 応募方法：上記応募規定を満たした作品に、応募用紙(別紙様式1)及び著作権に関する承諾書(別紙様式2)を添付して、末尾記載の広報企画室まで郵送もしくは直接持参してください(電子媒体のみの応募は不可)。
6. 表彰：
  - ・ 採用作品及び候補作品については、次の賞品を授与します。

最優秀賞(採用作品)	シンボルマーク	1点	賞金	10万円
	イメージキャラクター	1点	賞金	10万円
優秀賞(採用候補作品)	シンボルマーク	1点	賞金	2万円
	イメージキャラクター	1点	賞金	2万円
7. 発表：
  - ・ 入選者には直接通知します。
  - ・ その他、学内掲示、HP、広報誌「風紋」。
  - ・ なお、最優秀作品に関する全ての権利は鳥取大学に帰属するものとします。
  - ・ 優秀作品については、必要に応じて修正、補正を行うことがあります。また、応募作品は返却しません。
  - ・ さらに、氏名や学部・学科・回生・卒業年度は、公表されるものとします。
8. ご応募・問い合わせ先：
  - 〒680-8550 鳥取市湖山町南4丁目101番地
  - 国立大学法人鳥取大学 総務部企画調整課広報企画室
  - TEL 0857(31)5006 内線2113
  - E-Mail [tkitao@zim.tottori-u.ac.jp](mailto:tkitao@zim.tottori-u.ac.jp)

### 事務局だより

会員の皆様には元気でご活躍のことと存じます。

今年2月、冬の寒い日に一通のメールが届きました。

送り主は河村昭一氏、メールによると奥様のお父様が農学科昭和7年卒の田中祐彦氏で現在、認知症にてご入院中との事。広島貯金局より「鳥大昭7会」の貯金通帳の問い合わせがあり、残金が11万円余ある事、田中祐彦氏が幹事をされ、管理しておられたらしく、このお金を同窓会に寄付したいので、同期の方の情報を入手したいとの事、とてもいねいな文章で送られて来ました。

本来なら、個人情報という事でお断りするのですが、趣旨が明確であり、お気持ちも十分理解出来るとの事で、情報提供いたしました。

今年6月農学部同窓会宛に118,653円の現金と切手(60円×25枚)が届きました。この寄付金は今年度の基本財産に計上させていただきます。郵便局の処理、同期の方々

との連絡、特に同期の方へは同意書、報告書...と、長年事務を担当している私でもさぞ大変だった事かと頭が下がる思いです。お父さまの意志を大切にとのお気持ちからかと思いますが、大切なものが見えなくなっていると言われる時代、あるべき振る舞いや、持つべき誇り、他人への心配り、色々な事を教えていただいた気がします。

農学部改修工事もだいぶ進みました。現在、事務局(仮住い)は4階にあり、天気の良い日の美しい日本海と湖山池の大パノラマは最高です。名簿発行にむけ、作業も開始されました。ご住所等変更がありました時は、是非連絡下さいませようお願いいたします。

TEL. 0857 (28) 9262

E-Mail [dousou@muses.tottori-u.ac.jp](mailto:dousou@muses.tottori-u.ac.jp)

事務局 北嶋 邦恵